

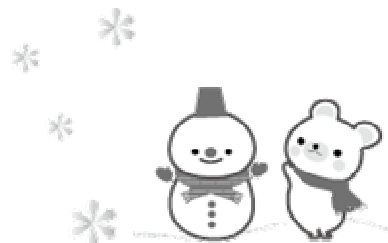


文責 道徳教育推進教師

2学期も残すところ10日余りとなりました。仕事は、計画通り進んでいますか？よい冬休みになるよう、もうひと踏ん張り頑張りましょう。

さて、8日には最後の音戸中学校区小中一貫教育研究授業が、渡子小の1年生教室で行われました。音戸中学校区の先生方が沢山来られた中で、有田先生と1年生の子どもたちが、温かい雰囲気の中で授業を展開していきました。

授業後の協議会では、資料を理解させるための提示の仕方と価値の一般化について活発な意見交換がなされました。また、今回は、広島大学大学院教授の朝倉淳先生と呉市教委の神笠雅司先生においでいただき沢山の御示唆を頂きました。それをまとめてみました。今後の参考にさせていただければ幸いです。



第6回音戸中学校区小中一貫教育研究授業での学び

【第6回音戸中学校区小中一貫教育研究授業 第5回校内研修】

指導講話：朝倉淳先生

★資料提示について

- 資料をよく理解すること。つまり、資料の形を認識し、そのまま与えるのではなく、ねらいをはっきりとさせ、児童に何を教えていくかをはっきりと教師が持ったうえで、資料そのものを有効な形に変えていくことが大切である。
- 板書は、ひと目でわかるようにする。今回の資料の挿絵を順に並べていくのも有効である。

★振り返りについて

- 教師が振り返りをさせる意図は、実践につなげていくためである。そのために授業を作っていくのである。資料と同じ振り返り内容では、実践には結び付きにくい。そこで、1つの例として、7人全員の良さを『思いやり・親切』の観点で見つけておき、振り返りの場面で教師が紹介する。(プレゼントをする)資料中の主人公も素晴らしいが、自分達も素晴らしいことをしていることに気付き、今後の実践へとつながっていくであろう。

うらに続きがあります



★判断力について

○ 判断する場を作ることで、この力を付けることができる。それは、資料の山場が一番できやすい。その時に必要なことは『イメージを作ること』『立場に立たせること』『考え方を育てること』の3点である。

- ①イメージをつくる・・・ないものを見えるように、言葉がけや動作化を教師がする。
- ②立場に立たせる・・・自由度のある発問を教師がする。発問が機能しやすくするためには、主人公の人物像をそれまでの発問で作っておく必要がある。
- ③考え方を育てる・・・何が問題なのかを絞る。その後、比較をする。(もし～をしたらどんなことがおこるか)その筋道を子どもたちが学んでいく。したがって、結論だけでなく、理由を言わせる必要が出てくる。

★意欲について

○ すばらしいものを提示するのではなく、「よかったね。」「自分でもできそうだな。」とを感じるようなものを紹介することで、意欲を高めていく。友だちの姿を目の当たりにさせると良い。

＊＊ 冬休みまでに準備するものです チェックしてみてください ＊＊

- ① 道徳のあしあとは、掲示している。
- ② 道徳の略案と板書は、ラミネートしている。
- ③ 今までに行った道徳の授業を価値項目ごとにまとめている。(表は研究のフォルダの中にあります)
- ④ 授業で使った資料は、資料室にストックしている。
(指導略案・板書・読み物資料のコピーもお忘れなく)

